

龍ヶ崎の歴史

中世

源頼朝の命により常陸国南部を与えられた下河辺政義は、文治2（1186）年に貝原塚から領民を引き連れ、湿地帯の根町を開拓しました。これが最初の龍ヶ崎の町づくりといわれています。

永禄11（1568）年に土岐胤倫（美濃国守護土岐氏の支流・江戸崎城主土岐治英の次男）が龍ヶ崎城の城主となり、龍ヶ崎第二の町づくりを行いました。それが上町を中心とした現在の市街地（地図枠部分）の原型です。しかし、土岐氏の支配は長く続きませんでした。羽柴秀吉の小田原攻めの際、北条氏に与したため滅亡します。

近世

豊臣秀吉の時代、常陸国で勢力を振るう佐竹一族の、芦名盛重が江戸崎に本拠を置きこの地を支配します。

そして、徳川の世になると、慶長11（1606）年、伊達政宗は徳川幕府から常陸國河内郡と信太郡26カ村（1万石余り）を与えられて、仙台藩常陸國龍ヶ崎領が誕生しました。政宗は龍が峰の西麓（現・龍ヶ崎小入口付近）に陣屋を築き代官を置いてこの地を支配しました。仙台伊達藩の支配は幕末まで続きます。

近代

明治4（1871）年、廢藩置県により龍ヶ崎藩は龍ヶ崎県となります。更に同年龍ヶ崎は新治県に属すことになりました。そして明治8（1875）年、新治県は廃止され、県域を拡大し現在の茨城県となります。

明治32（1899）年、龍ヶ崎鉄道株式会社（現・関東鉄道株式会社）が設立され、翌年龍ヶ崎～佐貫間が開通し、またこれに合わせて日本鉄道土浦線（現・JR常磐線）佐貫駅（現・龍ヶ崎市駅）が開業します。

現代

昭和29（1954）年、龍ヶ崎町ほか稲敷郡の隣接する6町村と北相馬郡1か村が合併し、龍ヶ崎市が誕生。翌年さらに北相馬郡の一部が加わり現在の市域になります。

昭和40（1965）年代、市営グラウンドやし尿処理場など都市基盤の整備が順調に進み、また、流通経済大学が開校するなど、学園都市としても発展します。昭和50（1975）年代、龍ヶ崎ニュータウンの建設が本格的に始まり、東京のベッドタウンとして発展します。

茨城県龍ヶ崎市へ！交通案内



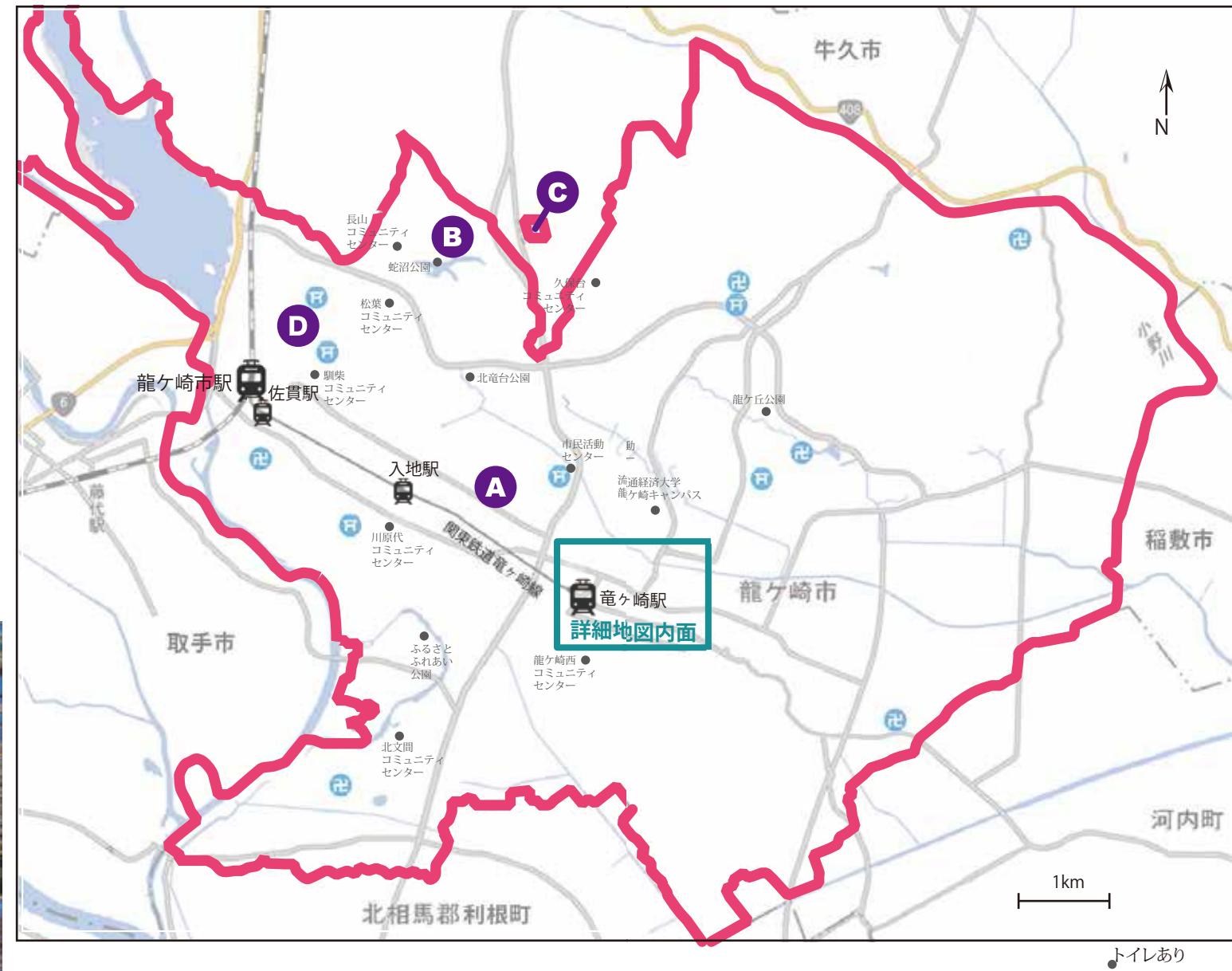
圏央道（首都圏中央連絡自動車道）
牛久阿見インターチェンジから約20分



JR常磐線龍ヶ崎市駅で関東鉄道竜ヶ崎線
に乗り換え、竜ヶ崎駅下車



国登録有形文化財 旧諸岡家住宅煉瓦門及び堀



中心市街地以外の見どころ

※中心市街地の見どころは内面※

A 来迎院 多宝塔 駒馬町 2362 国重要文化財

小ぶりながらも優美な三間多宝塔は、室町後期の建築物と考えられる。塔の最上部にある宝珠には「弘治2年に城主・土岐治英がこの塔を修築し、そのとき、治英の一族・家臣や僧、番匠、鍛冶職人など、多数参加した」ことが刻まれている。

この地方ではほとんど遺構をみない多宝塔形式で、形式上から、又建立年代の古さからも、この地方においては極めて貴重な存在である。平成14（2002）年には全面改築され、創建当時の姿が再現された。

B 竹内農場西洋館 若柴町 2240-46 龍ヶ崎市民遺産

建設機械大手「コマツ」などを創業し、早稲田大学理工学部の創設に尽力した竹内明太郎（1860～1928）が、1920（大正9）年、女化原に開拓した農場内に建てた赤レンガの別荘。レンガは日本煉瓦製造（埼玉県深谷市）製。



現在は屋根や床が落ち、建具などもほとんど失われているが、御影石の土台とレンガの壁から当時の姿を偲ぶことができる。

龍ヶ崎市は、竹内明太郎の子孫からこの建物の寄贈を受け、また同家から譲り受けた、農場の庭園設計図などの資料とともに市民遺産として認定した。

C 女化神社 駒馬町 5387 龍ヶ崎市民遺産

建久年間（1190～1198）に創立されたと伝えられ、農業神として信仰され、今も市民に親しまれている。

「みどり子の母はと問はば女化の原にななく臥すと答へよ」という歌とともに、狐の恩返し伝説が残されている。これにちなんだ狛犬代わりの狐は、3匹の子狐を抱えている。

D 旧若柴宿 龍ヶ崎市若柴町 866（地番は金龍寺） 龍ヶ崎市駅より徒歩15分

旧水戸街道の千住宿から数えて7番目の宿場で、常陸国の入口に当たり、牛久沼の沼沢を避けた高台に位置する。江戸方面からの入口に八坂神社があり、水戸方面からの入口に星宮神社がある。街道筋には江戸・明治期に建てられた旧家が並び、坂道には会所坂、足袋屋坂、鍛冶屋坂などの名前が付けられていて、宿場であった名残を感じさせてくれる。また、新田義貞の菩提寺金龍寺が所在し、この宿場の見どころとなっている。

1 米薬師堂

米町 3918 付近
病気平癒、開運の信仰を集める。

本尊の薬師如来は行基の作で、加藤清正の守護仏であったと記録されている。

龍ヶ崎城付近は江戸時代に仙台藩領地となり、伊達政宗の命で、東西の入口に仙台領柱が立てられた。また、西の米町薬師堂と東の砂町薬師堂（現・医王院）が東西の守りとされた。地元女人講中が奉納した大きな絵馬が残り、多くの人々で賑わう薬師市のような見ることができる。

2 高田権現神社

米町 3592
路地裏の新四国八十八か所靈場。

鎌倉時代の領主、下河辺氏一族の小山氏の邸宅があった場所で、元々は小山氏の邸内神として祀られていた。後の領主、龍ヶ崎氏が滅び、土岐氏支配の時代に熊野権現を勧請し、高田権現神社となった。

3 般若院

根町 3341

しだれ桜が有名。歴代支配者が信仰してきた。

山号寺号は金剛山観音寺、本尊は聖観世音菩薩。天元元（978）年、道珍によって貝原塚に創立されたと伝わる。大永4（1524）年、現在地に移り、小野逢善寺十二世尊雄の子考觀によって堂宇が建てられ、八坂神社の別当を務めるなど寺院の基礎が固まったとされる。



天正年間（1573～92）に定雄が中興して阿弥陀堂と觀音堂を建立し、土岐氏の祈願所、伊達家歴代の位牌所となつた。

4 撃舞通り

根町 3428 付近

八坂神社祇園祭の神事が行われる。

撃舞は、八坂神社祇園祭の最終日、雨乞いや豊作などを願い行われる伝統行事。国選択・県指定無形民俗文化財。たっつけ袴に蛙の面をかぶった舞男が、高さ14mの柱の上で妙技を行う。八坂神社は現在は上町にあるが、かつて根町にあった名残で、今もここで撃舞が行われる。撃舞のほか神馬と獅子の儀式も見られる。

5 賴政神社

寺後 4162 付近

龍ヶ崎の歴史を800年見守る神社。

龍ヶ崎の祖、下河辺政義が崇敬する源三位賴政を祀ったと伝わる。現在の賴政神社は神木に守られた小さな祠だが、明治初期には立派な社殿があり、昭和期まで多くの参拝者が訪れた。

6 しぶくり卵塔の墓地

新町 4085 付近

渋栗と当て字される。

龍ヶ崎の祖、下河辺一族の墓があった場所と考えられる。かつてしぶくり卵塔が立っていたことから、この墓地をしぶくり卵塔と呼んでいる。一説には「しもこうべ」が訛って「しぶくり」になったとも言われている。

7 大統寺

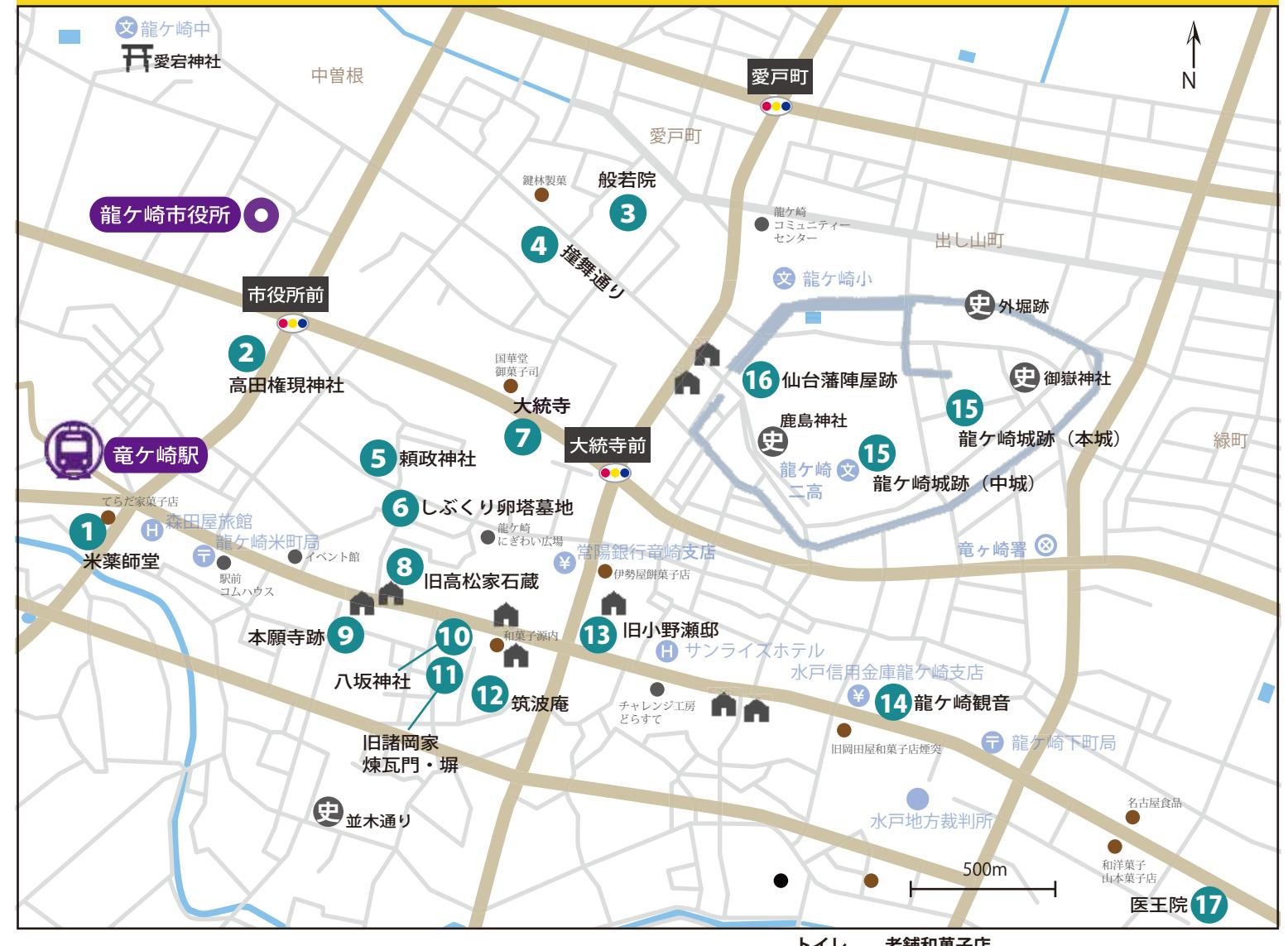
横町 4189

歴代の龍ヶ崎領主が縁の寺。

もとは龍ヶ崎城主土岐氏の菩提寺で、釈迦如来を本尊とする曹洞宗の古刹。江戸時代には、伊達家の菩提を弔う寺として、寺領がつけられ、門前町は「花の横町」といわれ大変賑わった。江戸中期の俳人杉野翠兄の墓がある。



レトロをさがそう!! 龍ヶ崎まちあるきマップ 中心市街地拡大図



8 旧高松家石蔵

新町 4099 昭和5（1933）年築
イベントスペースとして活用中。

大谷石の蔵。高松家は龍ヶ崎を代表する豪商。砂糖などを主に扱った。



代々の領主と住民の厚い信仰に支えられ現在に至る。明治の神仏分離令で、須佐之男命を祭神とする八坂神社に改編された。神事の撃舞は国選択・県指定無形民俗文化財で、多くの観光客が集まる。



9 本願寺跡

新町 4537-5 現・本願寺不動堂。
大火後に廃寺されたが、市民の浄財で再建。

江戸期まで所在した高森山本願寺は天台宗の寺院で、広大な境内を有していた。龍ヶ崎大火で本堂等を焼失し、その後廃寺。

昭和53年（1978）地域住民の浄財により、現在地に本願寺不動堂として新築。焼け残った仏像の不動明王、せいたか童子、こんがら童子、微笑みの子安弘法大師が安置されている。

10 八坂神社

上町 4279
龍ヶ崎の鎮守。

文治年間（1185～90）この地を支配する下河辺政義は、貝原塚の領民を引き連れ、沼沢の地であった根町を開拓した際、貝原塚の鎮守天王社を勧請。

その後、天正5（1577）年、龍ヶ崎城主土岐胤倫は龍ヶ崎の第二の開拓を開始（現在の上町・下町）。天王社を遷した。龍ヶ崎の鎮守として、

11 旧諸岡家住宅煉瓦門及び堀

上町 4274 国登録有形文化財 市民運動を契機に保護移築。

関東鉄道竜ヶ崎駅近くにあった明治築の諸岡邸の門堀のみを移築。竣工時は長さ55m、大柱の高さ3.8mあり、個人の洋風煉瓦門堀としては、全国的にも特筆される規模だった。



12 筑波庵

上町 4269
江戸時代にはここに俳人が集つた。

江戸中期の俳人杉野翠兄の俳句道場跡。翠兄は松尾芭蕉の流れを汲む大島蓼太の弟子で、江戸俳諧で活躍、小林一茶とも交流があった。江戸時代築の道場跡はかろうじて現存。市民団体によって保存が模索されている。庭内には松尾芭蕉の高弟服部嵐雪の句碑がある。



13 旧小野瀬家住宅・主屋

上町 4253 国登録有形文化財 現役住宅。

江戸時代から続く絞油製造業、肥料商。当主は代々小野瀬忠兵衛を名乗り、龍ヶ崎市の商業発展に貢献した豪商。三代忠兵衛は、干鰯と塩の専売で財をなした。また、五代目忠兵衛は、戦後に衆議院議員を3期務めた。



14 龍ヶ崎観音

下町 2877-1 毎年7月にはほおづき市が行われる。

天台宗の寺院で、正式には東福山水天院龍泉寺。8世紀初頭、蓮雪法印が創建したと伝わる。安産・子育ての觀音様として親しまれ、本尊の聖観世音菩薩は淳和天皇の勅を受けた弘法大師の作といわれる。毎年7月10日のほおづき市は、4万6千日分の参拝をしたことになる功德日で、お参りをしてほおづきを求める人々が多く、地元の風物詩になっている。



15 龍ヶ崎城跡

古城 3087 ほか 左地図グレーの付近に外堀があった。

戦国時代に龍ヶ崎の本格的なまちづくりを行った土岐胤倫の居城で、江戸崎を拠点とし常陸国南部を支配した土岐氏（美濃國守護土岐氏の支流）の支城にあたる。城は、空堀や自然の地形によって本城（本丸）、中城、外城と三つの曲輪に分かれていた。本城跡は高度成長期の都市開発で住宅地に変えられ、古城という地名が付けられた。中城跡には竜ヶ崎二高が建っていて、周囲に土壠跡が残る。また正門近くに土岐氏の守護神であった鹿島神社があり、かろうじて当時の面影を感じることが出来る。

16 仙台藩龍ヶ崎領陣屋跡

田町 3238 付近 仙台藩の領地を管理する重要な施設があった。

慶長11（1606）年、伊達政宗は徳川幕府から常陸国河内郡、信太郡合わせて26か村1万石余りを与えられ、仙台藩常陸国龍ヶ崎領が誕生した。政宗は龍が峰の西麓に陣屋を築き、代官を置いて領内の支配を行った。現在、陣屋の面影を偲ぶものはほとんど残っていない。



17 医王院

砂町 5147 仙台藩領時代には東の護りとされた。

山号は玉光山、曹洞宗の寺院で、慶長3年（1558年）大統寺の隠居寺として創建されました。明治37年に大統寺より独立。本尊は薬師如来、龍ヶ崎城主・土岐胤倫が創建した十二薬師のひとつで、江戸期には薬師信仰の篤い伊達政宗が東西の薬師堂を定め、医王院の薬師様は東の護り仏の役割だった。



境内には、龍ヶ崎が輩出した俳人・杉野翠兄（大統寺に眠る）が、文化10年（1813年）に師匠の雪中庵蓼太の17回忌を弔って建てた「蓼太句碑」があり、表面に「たましひの入れものひとつ種ふくべ」と蓼太の句が刻まれている。